

# タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2014 成果報告レポート

助成番号 14-1-1

プロジェクト名 地域で病気療養するこどもときょうだいを  
支えるための「あそびかた研究会」の実施  
団体名 一般社団法人こどものホスピスプロジェクト  
所在地 大阪府  
助成額 215万円  
設立年 2010年  
URL <http://www.childrenshospice.jp>



## (団体について)

こどものホスピスプロジェクトは、日本における「こどものホスピス」の普及を目指しています。こどものホスピスは、命を脅かす病気を持つこどもとその家族に、遊び、癒し、交流などのプログラムを通じて友のように関わる民間の活動（病院ではない環境）で、病院における「小児緩和ケア」と連携し、主に在宅療養するこども達を対象とすること、地域の寄付や企業の助成金で支えられるチャリティー活動であることが特徴です。団体設立後できるところから始めるということで、主に教育支援・訪問支援・小旅行支援・遺族支援などを、家族的な関わりの中で病院や在宅機関と連携しながら行ってきましたが、多くの方々の協力を得て、2016年4月にはいよいよ「TSURUMI こどもホスピス」（大阪市鶴見区）を開設することができました。

## (助成による活動と成果)

この間、病院や在宅における重い病状の子どもたちとそのきょうだいとの「あそびかた」を学ぶ機会が、子どもたちと関わる保育士、看護師、医師などの専門職やボランティアなどから求められていたことから、協力団体の「しぶたね」や「あそぼっくる」とともに「あそびかた研究会」を立ち上げ、本助成（2012・2013・2014年）により取り組んできました。

今回の「あそびかた研究会」では、毎月定期的に行う「連続講座」（8回）には毎回25名程度が講座・実習に参加し、「公開講座」では広く子どもたちやきょうだい、家族の状況を伝えることを目指しました。さらに、学びの成果を子どもたちとそのきょうだいに還元するために夏休みに行った「あそびかたフェスタ」（第3回）は大変好評で、参加者も282人と前回の約2倍となり、にぎやかな声が会場いっぱいになりました。

3年間の助成を通じた活動の成果では、専門職やボランティアなどが連続講座を通じて「あそびかた」の質を高め、各自の仕事を通じ子どもたちやきょうだいに日常的に還元できたこと、新しくボランティアを始めた人が出たこと、また関係者・団体のネットワークが広がったこと、また活動全体として「あそびかた研究会」の基礎づくりができたことを喜んでいます。

## (残された課題、新たな課題)

残された課題としては、これまでの実績と成果を活かし展開していくためにも、活動の継続性を高めるため運営の検討を続ける必要があります。活動の新たな発展を考え、3団体連携の枠組みから新たな展開を図っていくことも考えております。

(活動の背景・社会的課題) (団体からのメッセージ)

こどもの成長には「あそび」が必要不可欠ですが、長期入院・在宅療養する子どもたちとそのきょうだいは、その経験が制限されがちです。またそのような子どもたちが可能な「あそび」が提供できる医療・保育関係の専門職やボランティアも望まれています。

引き続き「あそびの人材」が数多く育つことを願い、ご関心のある方々に是非参加していただき、ともに長期入院・在宅療養する子どもたちときょうだいに「あそび」を届けていければと思います。

以上